

審議会等会議録

審議会等の名称	平成20年度 第1回山口市環境審議会環境基本計画策定部会
開催日時	平成20年 7月 28日(月曜日) 13:30~16:00
開催場所	山口市環境部 1階会議室
公開・部分公開の区分	公開
出席者	浮田 正夫(部会長)、関屋 建三、深田 三夫、吉村 京 敬称省略・順不同(4人)
欠席者	前田 哲男 敬称省略(1人)
事務局	(環境部): 安光次長 (環境保全課): 宮崎課長、飯田ISO推進室長、田中副主幹、 高村主任主事、東主任主事、瓦本主査 (7人)
議題	(1) 基礎調査報告書の報告について (2) 計画骨子(施策の体系)案について (3) 計画において重点的に取組む事項等について(方向性) (4) 今後の予定
内容	環境部次長の挨拶の後、部会長の進行により議事に入った。 <部会長> 本日、第2回目の部会になりますけども、非常に大事な会になるかと思えます。御審議のほどよろしくお願いいたします。 では、1番目に基礎調査報告書について事務局から説明お願いいたします。 <事務局> 基礎調査報告書について説明 <部会長> 前回の指摘を受けて基礎調査報告書の手直しと追加をしていただいたところを説明していただきました。大分、整理されてきているかなと思います。本編での調査報告書の形式的な関係というのは、どうなりますか。 <事務局> 基礎調査報告書のほうから本編に全部使うのではなく、使える部分は、使っていきます。これから計画を作っていく過程において、部会の委員さん等から御意見をいただく中で不足部分が生じれば、また、逆に資料として再編成しないとい

けない部分が出でくればそういう形で想定していきます。

<部会長>

まだ手直しできますか。

<事務局>

基本的に、これで終わりです。

<委員>

質問させていただいてよろしいですか。

基礎調査報告書は、データ集としての位置づけという話でしたけども、実際に目に触れる対象の方、利用される場所はどうなりますか。市職員等が計画策定する段階で利用するという形なのか。あるいは、市民グループや、学校で利用するという使い方をされるのでしょうか。

<事務局>

基本的には、表に出るといよりは、計画を作っていく上での具体的な調査をするための資料です。表に出すために作ったものではありません。

<委員>

非常に網羅されていて良いと思います。地球温暖化についての部分で、産業部門と民生部門の比較がありましたが、産業部門というのは、産業界がかなり努力されて、15、6年前のレベルからかなり減ってきています。しかし、相変わらず、民生部門というのは、増加の一途をたどっている。そこで、例えば、CO2の排出を減らしましょうと言うことでしたら、私達が、毎日の生活の中で、どれだけ浪費しているのかをもっと強調したような書き方をしたらいいのではないだろうかということで、そういう質問をさせていただきました。

<部会長>

通常のように、基本的な本編と、概要版を別に作られると思いますが、どの程度を本編に盛り込むかが、これからの選択でしょう。

<事務局>

そうですね。

<委員>

「一般廃棄物処理基本計画」との関係で伺います。これが報告書として出るのはいつになりますか。関係課の分担連携をずいぶん強調されたのですが、今後の

対策のところ、各課の相互関係の位置づけはどうなりますか。

<事務局>

調査報告書としては、20年の3月です。「一般廃棄物処理基本計画」の中身もこちらのほうへ資料として取り込んでいます。

<委員>

大体同じですか？

<事務局>

内容としては、この基本計画が、生かされてくる形になります。

<委員>

145ページの二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出量の部分ですが、メタンというところで、農業部門の変化については、排出源となる家畜が少なくなったことが原因と推測されますということで、減った部分に対する説明があるのですが、あいかわらず緑のところが多いのでこれは、農業の一体何なのか、少し具体的に入れた方がわかりやすいと思います。例えばトラクターを使う油から出るとか、施設部門の油であるとか、具体的に色々あろうかと思えます。その辺を少し加えれば、わかりやすくして良いのではないかという感じがしました。

<事務局>

家畜の反芻によるものと、1頭当たりの原単位というのがございまして、頭数を乗じることで、数値を出しています。

<委員>

やはり、家畜ですか。

<部会長>

工業部門の原単位が、山口市と山口県では大分違いますので、厳密に言えば少し違うのだけれども。二酸化炭素排出量が、民生部門、家庭部門が36%でその他が64%ということになると、家庭は、まだ少ないんだぞと、山口市においてもあんまりやらなくてもいいじゃないかという印象になっていけないと思います。第三次産業というのも、ほとんど、民生、家庭部門に近いでしょう。少しくくりかたを変えたらどうでしょう。

<委員>

県の環境政策課の方では、かなり詳しい地球温暖化関係の冊子を作られています。

す。その中で、例えば台所のガスの火がどれくらいとか冷蔵庫は、どれくらいとか、こと細かに日常生活のあらゆるところにどのくらい二酸化炭素を出しているのかを自分で計算するものを作っておられます。確かに民生部門が増えているという事なのですが、何か他人事のような、本当かなという印象があります。実際に毎日、自分たちが生活する中でどんなに二酸化炭素を出しているのかということをお子供たちに教えるために使われるとしたら、その辺を具体的に資料作りしていただけると良いです。これは、これで良いと思いますけども。

<部会長>

後で議論になりますが、重点プロジェクトでどうしても今回は、温室効果ガス削減のところも、作らざるを得ないと思います。重点としては、家庭での電気消費量とマイカーの消費の二つを考えていかなければいけないと思います。

<委員>

温暖化のところでは二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出量の中にカーエアコンの使用によるものというのがあります。

<事務局>

カーエアコンの使用によって出るという計算方式でございます。

<委員>

市民の責任とか、利用者の責任ということをお今後、考えていくことになれば、そのあたりの自家用車についての取り組みをどうするのかということをお、市民に啓発、運動をしていったら良いと思います。それと第3章山口市の環境の現況のなかで山口市の取り組み事例が挙げられています。その中で、バイオマスの活用として、廃油、使用済みのてんぷら油を収集車に利用していますよとここには書いてありますが、小郡の一部で収集されているものであり、大部分の市民には馴染みがないのではないかとおもいます。ペレットの取り組みについても、ペレット自体が、市民には馴染んでいない、まだ、実感がないのではないかとおもいます。このあたりの表現については、解決済みではないか、こんなに進んでいるかという印象を与えてしまうのではないのでしょうか。私達が、今からなんとかして取り組んでいかなければならないと思っているのに、ここでは既に、天ぷら油は、回収してゴミ収集車に使っていますよ、それから学校の給食も、特別養護のそれから飲食店の残さもなにかプラントで利用していますよと挙げられています。市民感覚としてはこのように出されても、実感がないのではとおもいます。

<部会長>

7章において地球温暖化の詳しい記述がありますけども、重複している面があ

ります。山口市における温暖化の簡単な現状ですね。温暖化の現状と言ったら、温度がどうなっているとか、それに対して自分たちの取り組みができてない等、また、モデル的なケースでは、この程度の取り組みがされているけれども、課題としては、頑張らなければならないというような記述をした方がいいと思います。写真はなくてもいいですね。温暖化の現象が山口市民にも感じられるところを書くべきではないでしょうか。

<委員>

むしろ、グリーンカーテンだとか、今、市民が、取り組んでいる身近な生活として感じられるものの方が良いのではないかと思います。

<部会長>

第三章は、環境の現状と取組の現状が入っていますね。ほかの部分も大体そうなっていますね。

<事務局>

事例的にあたっていったものが載っています。まだまだやらなければいけないことはあると思いますので、御意見をいただきます。

<委員>

山口市のごみ分別は、今12品目に分けられています。そして、山口市の分別は、大変良いと評価を受けています。これは、素晴らしいと思います。そのような、非常に進んでいる、市民がよくやっているという実績をちゃんと市民に知らせて、より分別を進めていって欲しいです。

<部会長>

それ大事ですね。出されたものが、非常に質が良いのですね。

<委員>

私達が、視察に行ったりリサイクル事業者は、山口市の分別は非常に良いと言ったださっています。それは、自慢すべきことだと思います。

<部会長>

不燃物中間処理センターを県立大学と見学させてもらったのですが、小型家電を民間にリサイクルしていますね。あれは、非常にユニークで面白いなと感じました。継続できるのなら、面白いやり方だと思います。

<委員>

むしろ、山口大学、県立大学の学生とか若人たちが、学校で取り組んでいる活動を取り上げて欲しいです。

<委員>

市の公報に、取り組みを知らせるコーナーを持っていますか。ゴミの収集日等はもちろんですが、現在取り組んでいることや実績をあげていることを公報等で知らせるのが一番良いのではないのでしょうか。

<事務局>

ゴミ対策課で毎月15日号に記事を出しています。また、毎回ではないですが、CO2削減を家庭で出来る取り組みについての記事を書ける等、掲載できる範囲で行っています。

<部会長>

58、59ページあたりについては、湯田温泉や小郡の山頭火に関する記述があってもいいのではないのでしょうか。また、萩往還だけでなく、明治維新の文化財として藩庁門も取り上げるといいと思います。そして、134ページの農業生産法人のことは、農業に関することではないので他の箇所にもわするのがいいでしょう。

<委員>

環境基本計画と温暖化地域計画は、一つでいくという事ですか。二種類作成しない。ということは、基本計画の中に相当、温暖化地域計画を入れないといけませんね。一般廃棄物処理基本計画が既に、去年出ていますが、特に山口市の場合、ごみの排出量が全国に比べて、2割近く高いという状況にあります。ゴミを減らすこと自体が温暖化対策に貢献すると思います。これを見るとやや実現可能な目標設定をしているような気がします。本筋をいじるわけにはいかないと思いますが、すこし文言表現でこの削減目標より、積極的な雰囲気の基本計画の中で出した方がいいのではないかと思います。その中で特に、剪定枝の処理が問題になっている気がします。建物を壊す時は、純粹に産廃なので市に持ち込みはできない。剪定枝となると一般廃棄物になるので、市が受け取る。うまくリサイクルか、受け入れ拒否できれば変わってくるのではないのでしょうか。また、産廃が結構入っているのではないのでしょうか。カットしたら減るかというよそに回るだけで実態は、変わらないけども、カットすることで、産廃処理でリサイクルに回っていく。そして、総量的にリサイクルにまわる量が増えてくるという具合です。その辺を少し考えてはどうでしょうか。中間処理センターができたから今後は、リサイクル率がぐっとアップして、埋め立て率が減ってくると思います。中間処

理センターの機能が十分に発揮できるのであれば、緩やかに受け入れて、また、埋立てを考えた時、減らした方がいいというのであれば、産廃と一廃の分別をして受け入れ量全体を減らしていく、それが、トータルとして地球温暖化防止にプラスになればいいと思います。山口市の場合、二酸化炭素の排出量は非常に少ないのですが、これは、産業構造で少ないだけで、民生の家庭と業務部門が非常に伸びが高い。基本計画を作るにあたっては、その民生部門の伸びの原因を少し解析して基本計画の中で、積極的に対策を触れたら良いのではないのでしょうか。山口市は、民生部門を押さえれば、ぐっと伸びを抑えられるか、上手くいけば減少に転じさせることができます。これをぜひお願いしたいです。

また、代替フロンについてですが、これを見ると冷蔵庫とクーラーの分は入っていないのですが、これは、もう業者規格ということで計上していないという事でしょうか。これは、温室効果ガスですが、冷蔵庫、クーラーの場合古いものが多いですね、フロン系がまだ結構でるのではないのでしょうか。家電リサイクル法で十分載っているよということで載っていないのならそれでもいいかもしれないし、市のエリアから出るという考えでいけば、どこで処理されようとするものは出るという事で載せるべきでだと思います。

<部会長>

クーラーを付け替える場合、パイプを外した時にフロンガスが漏れないようにしているのでしょうか。格納しているものをもっていかないといけませんね。

<委員>

業者資質です。一応、厳格には運用されていると思いますが。

<事務局>

よろしいですか。先ほどの剪定枝の件ですが、これは、山口県のバイオマスビジョンなんかにも出ていますが、量としては、山口市、阿東町は、かなり出ています。山口市では、別セクションにおいて、今後バイオマスタウン構想をつくる予定にしています。実際に、そういった中で、間伐材とあわせて剪定枝も有効に使っていこうという考えがあります。また、産廃受け入れの問題については、非常に難しいと思います。実際基本計画の中でどこまで記述できるかという問題もあるわけですが、まあ規制的な手段というのは、何がしか考えていく必要があると思いますのでそういう視点は、考えていく必要があろうかと考えています。

<部会長>

産廃の問題については、方法がありそうですね。気になっているのが、剪定枝、あるいは草ですね。これを利用しようという記述がないです。一方で家庭用の堆肥装置の助成やっています。これからは、市としての姿勢は持っておく必要

があるのではないのでしょうか。

<委員>

山口大学は、30ヘクタール、農場をいれると70ヘクタールほど面積があるのですが、その中の剪定枝は、移動式のチョッパーを購入しまして、20頭ばかり、山口大学の中で牛を飼っているのですが、堆肥化をやっています。全部ではないですが、右に倣えではなく、山口市方式という形でしたら良いのではないのでしょうか。ところで、剪定枝はどのくらいの量がありますか。

<委員>

一般家庭では、春先からふつうのごみの半分くらい、1袋、2袋は、雑草、枝ではないのでしょうか。本格的な庭木の剪定は、業者が処理されています。剪定枝は、一般家庭では出すところがなくて、切って可燃物として出さなければいけない、大変なんですね。阿知須に木材を堆肥にするところがありますが、別に収集をするとすると、分別回数が増えるわけなんですね。町内清掃の時は、1年に1回草を刈って土手に置いています。以前は、市の収集袋に入れて市に収集してもらっていました。

<委員>

燃やせないなので、むしろチップ化して被覆材としておいたほうが良いです。

<部会長>

近所に遠慮するんですね。

<委員>

枝を電気で切らないといけないので効率が悪いです。

<委員>

集落排水で汚泥処理したものを堆肥にしていますね。そういったことを考えていかないといけないと思います。

<委員>

1箇月に1回でも剪定枝の分別を決めておいたらどうでしょう。

<事務局>

剪定枝とか、厨芥類、食品残さとかを一つの環境コミュニティビジネスとして成り立たないかなと考えているものもあるんです。

<部会長>

まずは、基礎調査報告書、承認ということではよろしいですか。
では、次に計画骨子案について事務局から説明をお願いします。

<事務局> 資料説明

<部会長>

計画骨子案の内容について御質問ございませんか。

<委員>

山口市の水道水は、地下水、樫野川の伏流水を基にしているということで、豊かな地下水が山口市の大きな特徴だと思います。どこかで強調された方がいいのではないのでしょうか。

<部会長>

山口市は、水が良いというのが一つの特徴だろうからそれは、なんらか反映する方向でいきましょう。

<委員>

資料の2ページの排水対策という部分ですが、具体的に雨水という表現がいいのではないのでしょうか。

<部会長>

排水対策というのは、どういう意味ですか。処理をする排水ですか。

<事務局>

事業所、家庭のほうの排水です。

<委員>

排水対策施策の方は、並列の項目ですか。

<部会長>

森林の保全は、真ん中ではなく3番目かなと思います。まあ、今日議論いただくのは、環境目標の五つがこれでいいのかということで、これに施策の方向性が対応していきます。環境目標の五つ、これでいいのでしょうか。「地球環境保全に貢献するまち」は、積極的な表現ですね。緑豊かという言葉ですが、自然を表現するので、木だけでなく、わかりやすくひらがなをお願いします。「住みよい環境に保全」ですが、人と自然の共生とアメニティとか、景観、ひとづくりですね。

場合によっては、騒音、悪臭は、下（健康で安全に暮らせるまち）に移してもいいのかという気もします。

<事務局>

再編成は、御意見をいただいと考えています。

<部会長>

COP10（国連生物多様性条約第10締結国会議）の名古屋開催が、クローズアップされているようです。「地球環境保全に貢献するまち」と「環境への負荷の少ない循環するまち」のエネルギー効率利用はだぶると思います。「環境への負荷の少ない循環するまち」のところは、資源の節約とかそういう観点でまとめた方がすっきりするかと思います。

<事務局>

はい。

<委員>

「地球環境保全に貢献するまち」ですが、保全をとったらおかしいですか。

<部会長>

そのほうが良いと思います。関連して、国際協力についてあまり触れられていないので、一番上か下かにお願いします。特に地球環境、資源問題 国際的な視野は欠かせないと思います。

<委員>

環境について今、勉強しているのですが、地域コミュニティとか、人間関係、集落が、環境問題の中では、非常に大事になっています。お互いを監視してレベルアップしていくことが必要です。意識改革しないとだめ。規制的なものではなく、自主的にお互いで啓発していくようなことです。

<部会長>

少し工夫していきますか。

<委員>

「食」とか「農」とかこの範疇に入らないのですか。

<委員>

どこまでが、健康、安全かというのがあります。

<部会長>

農林水産業などの項目が、あってもいいかもしれません。樫野川の取り組みは、全国的に注目されている。環境行政型の農林水産業が一個あってもいいでしょう。

<委員>

環境基本計画というのは、直接的にイメージする環境から幅が広がって、会社でいえばCSRの一つの分野位置づけになっている。そのことから、「農」についても人間の健康、メンタル面での貢献を少し加えてもいいのではないのでしょうか。

<部会長>

よろしいですか。それでは、望ましい環境像について事務局から四つ示されていますが、どうでしょう。

<委員>

その前によろしいですか、足立区は東京23区の中でリサイクルセンターを利用しない方ですか。

<部会長>

足立区のタイプを利用しようというのは、形式だけですから。

ところで、考えてきたのですが、「ホテルと歴史文化に彩られたみどり豊かな環境都市やまぐち」は、どうでしょう。

<委員>

「みんなでつくる循環型都市やまぐち」との関係はどうですか。

<事務局>

これは、一般廃棄物処理基本計画の文言で、別になります。

<委員>

頭にスッと入っていくものがいいと思います。少し長いです。市のパンフレット等で使われるのですか。

<事務局>

環境部門で使っていきます。

<委員>

すっと頭に入っていくのが良いと思います。

<部会長>

歴史、文化があったほうが良いです。どこにでもあるものではないので。

<委員>

温暖化地域計画を含めていくことになると「循環型」が必要ではないでしょうか。

<委員>

公募されていますか。

<事務局>

いいえ。今日は、御意見をいただくという形でお願いします。こういう視点が必要など。

<部会長>

ホテルが共生のシンボルなのでしょうか。これは、事務局で検討されたと思いますが、もう少し検討していただくということをお願いします。では、よろしいでしょうか。

次、3番目ですね。「計画において重点的に取り組む事項等」についての説明をお願いします。

<事務局>

資料説明

<部会長>

重点プロジェクトについて自由に御意見いただければと思います。

<委員>

旧山口市は、榎野川流域イコール山口市でした。現在は徳地が加わりましたので、流域系が、二つになりました。一つの流域で一つの地域を形成するというのは大きな特徴です。ゼロエミッションという表現もございましたが、上流域を汚すというのは全域を汚すという事になる。そこでとれたものをそこで消費するというような。山口市の特徴を記述していただければと思います。市の一部だけやってもだめ。山口市の特徴と課題の記述ありましたか。

<部会長>

森川海共生プロジェクトとかまさにそれです。榎野川、河口干潟、何れにしても共生に近い。ホテルも共生、ただ、ホテルを一つとりあげて重点プロジェクトにするには、古い感じがしますね。

<委員>

ホテルは、あちこちでやっていますから。

<部会長>

ゼロエミッションというのであれば、くるくるプロジェクトのほうが良いと思います。いきいきプロジェクトが、生物多様性を意味するのであれば、榎野川の取り組みですね。あんまり広くすると重点といえなくなるかもしれませんが。

<委員>

地域協議会は、どれくらい決まったのですか。

<事務局>

8月の盆明けに設立総会です。会の名前は、「温暖化とめるっちゃネットワークやまぐち」に決定しました。

<部会長>

温暖化とめるっちゃプロジェクトでもいいですね。おいでませプロジェクトも、外から観光客をよぶイメージでいいかなと思いました。湯田温泉も川があった方がいいでしょう。築山神社等、整備するとか。149ページの大内文化特定地域整備面積、目標掲げていましたね。わいわいプロジェクトというのは、いずれにしろやらなければいけないと思います。

<委員>

アートふる山口などは、面白い取り組みですね。

<部会長>

くるくるプロジェクトも大事ですね。地産地消とか。

<委員>

いくつか選択するんですか。

<部会長>

今日は審議をお願いします。

<委員>

あと、何回開催されますか。

<部会長>

1回ですね。

<委員>

市民一人ひとりの意識の高まりを待つのか、法的に制約をかけていくのかというところですが、どうなのでしょう。

<事務局>

基本的に法的に制約をかけるのは、最終手段となりますので。

<部会長>

アンケートを見ていると大人より子供の方が、生活が不便になるのはいやだという意識強いので、小さい子の環境教育が大事だと思うんです。しかし、学校の先生方が忙しいですよね。

<委員>

先生が忙しいので、キャラバン隊みたいなものを組んで、学校に1コマ頂いて実験したりなど環境教育が大事だと思います。人的なソースは、リタイアされた方とか、人材バンクからでも。

<委員>

目標設定は、この部会では、検討されるのでしょうか。福山市は、2050年までに50%削減の目標設定を打ち出しています。この考え方は、積み上げ方式ではなくて、地球のあるべき環境を描いて、そのためには、50%削減が必要であると先に設定し、それに対して技術力、社会体制で組み立てていこうという発想です。なので、できる、できないの議論より、まず50%やらないと2050年の地球は無いという位置づけで50%です。今後、温暖化地域計画をつくる市町村なりは、50%という目標を出してくるのではないかと思います。山口市の計画においても、長期目標に位置づけて、それをやると、計画の中で将来の検討すべき課題が50%削減に向けた長期的な取組方針を描けるようになります。2020年目標が20%削減となりますので、ちょっと苦しいですが。

<部会長>

「目標年まで30%削減がんばります。」でも良いのではないのでしょうか。

<事務局>

地域推進計画の部分ですね、市のレベルだと、産業部分など、削減目標を立てにくいです。その関係があり、先ほど3ページの方で、国の方が示している地域

推進計画のフローですね、こちらの方でどういった数値目標を設定していくかといったところが、出ているのです。計画数値を求めるような、国が示した大きい目標で、50%削減を入れていくのか等は、検討していかないといけないことだと考えています。

<委員>

後になりましたが、55ページのごみ減量・資源化に関する市の目標の部分だけが具体的に入っています。ここは、不燃物中間処理センターの写真等の掲載でいいのではないのでしょうか。

<事務局>

計画書の中では、検討していきます。

<部会長>

数値目標は、できるだけ入った方がいいです。次回の検討課題としましょうか。

<委員>

温暖化地域推進計画を兼ねているのであれば、少なくともCO2の排出量の削減は基準で満たして、どれくらいというのは、出したほうが良いです。

<委員>

民生レベルの市の排出量等は、正確にわかるものなのですか。年に1回、山口大学でも環境報告というのを出すようにしています。ブレーキになるものも必要なかなと思います。

<委員>

山口市の場合はっきりと民生、家庭と業務と運輸でも民生、家庭ですね、目標設定の時には、相対として出しにくければ、産業とか伸びていないところは、現状維持をベースに極力削減に努力するだけでも、民生での家庭と業務にターゲットを絞って目標設定する。それも、折れ線グラフで最後の目標年は、幅を持たして、数字をぼかしたやり方で敢えておかない。具体的に、各論編になったら対策としてはいくらでもあります。しかし、これが市としてできるかどうかわからない。家電製品の買い替えについて言うと、トップランナー方式のトップしか買わないというキャンペーンを行うという方法があります。具体的に400ℓの冷蔵庫であれば、このメーカーのこの機種というように。現実には、国が公表しています。そうすると、相当家庭の省エネが進むのではないかと考えられます。市としてやり難ければ、推進協議会で積極的にアピールしてやるという方法もあります。残念ながら市民にそういった情報がキャッチされていない。確実にキャッチする

	<p>というのを基本計画で触れる必要があります。</p> <p><委員> 私達は、エコバック利用を随分推進したのですが、結局決め手は、山口県がレジ袋削減のためマイバック持参などの全県的な運動を展開するという議会で出た情報でした。スーパーで50%ぐらいがマイバッグと急激に増えました。</p> <p><部会長> それでは、事務局の方からお願いします。</p> <p><事務局> 今後の予定を説明</p> <p><部会長> では、よろしいですか。本日は、以上で終わります。</p> <p>以上で会議を終了した。</p>
<p>会議資料</p>	<p>1 平成20年度第1回山口市環境審議会環境基本計画策定部会次第 2 平成20年度第1回山口市環境審議会環境基本計画策定部会配布資料 3 山口市環境基本計画策定に向けた基礎調査報告書</p>
<p>問い合わせ先</p>	<p>環境部 環境保全課 環境企画担当 TEL 083-941-2180</p>